

# 通所リハビリにおけるLSAを用いた評価と考察

医療法人 凌雲会 稲次整形外科病院 リハビリテーション部<sup>1)</sup>  
医療法人 凌雲会 稲次整形外科病院 診療部<sup>2)</sup>  
独立行政法人 国立病院機構 徳島病院<sup>3)</sup>

○一宮千尋<sup>1)</sup>河村和也<sup>1)</sup>一宮晃裕<sup>1)</sup>土井大介<sup>1)</sup>  
稲次正敬<sup>2)</sup>湊省<sup>2)</sup>稲次圭<sup>2)</sup>稲次美樹子<sup>2)</sup>  
高田信二郎<sup>3)</sup>



# はじめに

生活期リハビリテーションにおいては、身体機能やADLの向上に加えて、QOLの向上が重要であると考えます。

当通所リハビリテーションにおいては、居宅から送迎やリハビリテーションを通して、定期的な外出機会と活動範囲の拡大を図ってきた。生活空間の広がりとは他者との交流や気分転換などの刺激を生み、QOLの向上に関連しているのではないかという疑問を持った。

しかし、実際に生活空間の広がりとはQOLの関係性の有無については検証できていなかった。

そこで、今回、生活空間の広がりとは指標としてLSA(Life space assessment)を用い、QOLとの関係性を検証したので報告する。

# 対象

- 当通所リハビリテーションの利用者16名  
（男性7名、女性9名 平均年齢71.5歳）
- 認知症や失語症があり、聞き取りが困難な症例は除外した

# 当通所リハビリテーションの紹介

- リハビリ特化型の通所リハビリテーション  
要介護1～5までの方
- 利用時間は1時間以上2時間未満、  
4時間以上6時間未満
- 食事、入浴サービスはなく、リハビリや机上  
課題、自主訓練を行ってもらう

# 方法

対象者に対して、LSA、EQ5D日本版をそれぞれ測定した。

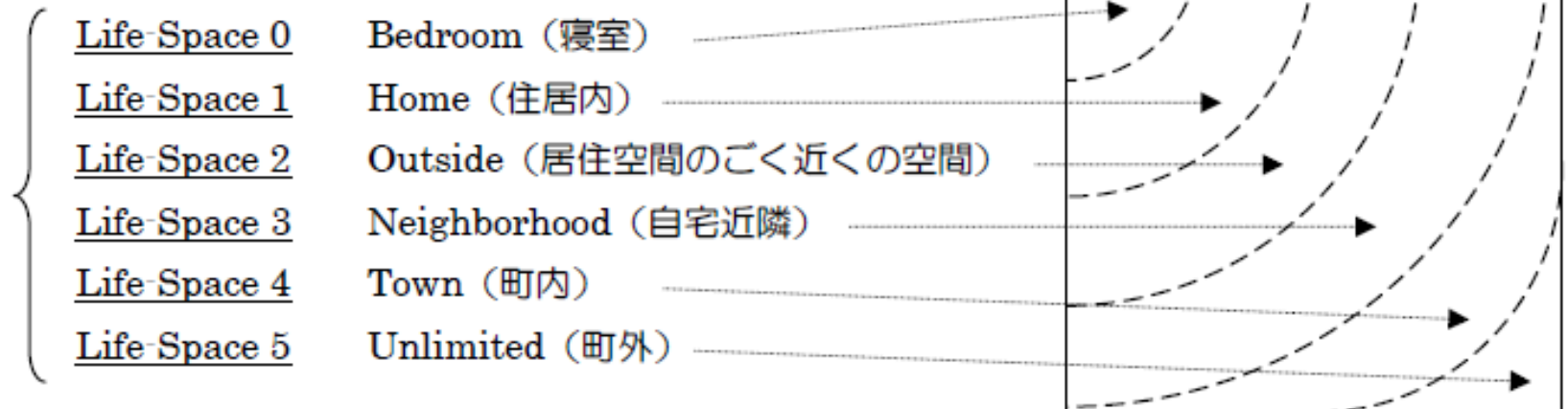
LSAについては質問結果をもとに計算式に当てはめ点数化し、EQ5D日本版に関しては評価結果をスコア換算表に当てはめて点数化した。

統計処理にはJ-STATを用い、有意水準は5%未満とした。

# LSA(Life Space Assessment)とは

個人の生活の空間的な広がりにおける移動を評価する指標。

生活空間とは活動を実施するために日常的に外出した距離によって規定される。



# LSAとは②

## ●個人が自分の住居から出かけた

距離

頻度

自立の程度

## ●レベルは6段階

Life Space 0: 寝室

Life Space 1: 住居内

Life Space 2: 住居空間のごく近くの空間

Life Space 3: 自宅近隣

Life Space 4: 町内

Life Space 5: 町外



MEDICAL  
CORPORATION  
RYOUN GROUP

生活空間レベル1	a. この4週間、あなたは自宅で寝ている場所以外の部屋に行きましたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ
	b. この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	<input type="radio"/> ①週1回未満	<input type="radio"/> ②週1~3回 <input type="radio"/> ③週4~6回
	c. 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ
	d. 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ

生活空間レベル2	a. この4週間、玄関外、ベランダ、中庭、(マンションの)廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの屋外に出ましたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ
	b. この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	<input type="radio"/> ①週1回未満	<input type="radio"/> ②週1~3回 <input type="radio"/> ③週4~6回
	c. 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ
	d. 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ

生活空間レベル3	a. この4週間、自宅の庭またはマンションの建物以外の近隣の場所に外出しましたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ
	b. この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	<input type="radio"/> ①週1回未満	<input type="radio"/> ②週1~3回 <input type="radio"/> ③週4~6回
	c. 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ
	d. 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ

生活空間レベル4	a. この4週間、近隣よりも離れた場所(ただし町内)に外出しましたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ
	b. この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	<input type="radio"/> ①週1回未満	<input type="radio"/> ②週1~3回 <input type="radio"/> ③週4~6回
	c. 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ
	d. 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ

生活空間レベル5	a. この4週間、町外に外出しましたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ
	b. この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	<input type="radio"/> ①週1回未満	<input type="radio"/> ②週1~3回 <input type="radio"/> ③週4~6回
	c. 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ
	d. 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	<input type="radio"/> ①はい	<input type="radio"/> ②いいえ

回答をクリアする

合計を計算する

合計  点

# EQ5Dとは

「移動の程度」「身の回りの管理」「ふだんの活動」「痛み／不快感」「不安／ふさぎ込み」の5項目の健康状態をそれぞれ3水準で表現した評価

移動の問題	1	歩き回るのに問題はない
	2	歩き回るのにいづらか問題がある
	3	寝たきりである
身の回りの管理	1	身の回りの管理に問題はない
	2	洗面や着替えを自分でするのにいづらか問題がある
	3	洗面や着替えを自分でできない
普段の生活	1	普段の活動を行うのに問題はない
	2	普段の活動を行うのにいづらか問題がある
	3	普段の活動を行うことができない
痛み・不快感	1	痛みや不快感はない
	2	中等度の痛みや不快感がる
	3	ひどい痛みや不快感がある
不安・ふさぎ込み	1	不安でふさぎ込んでもない
	2	中等度に不安あるいはふさぎ込んでいる
	3	ひどく不安あるいはふさぎ込んでいる



MEDICAL  
CORPORATION  
RYOUN GROUP

「11111」から「33333」までで、 $3^5 = 243$ 通り



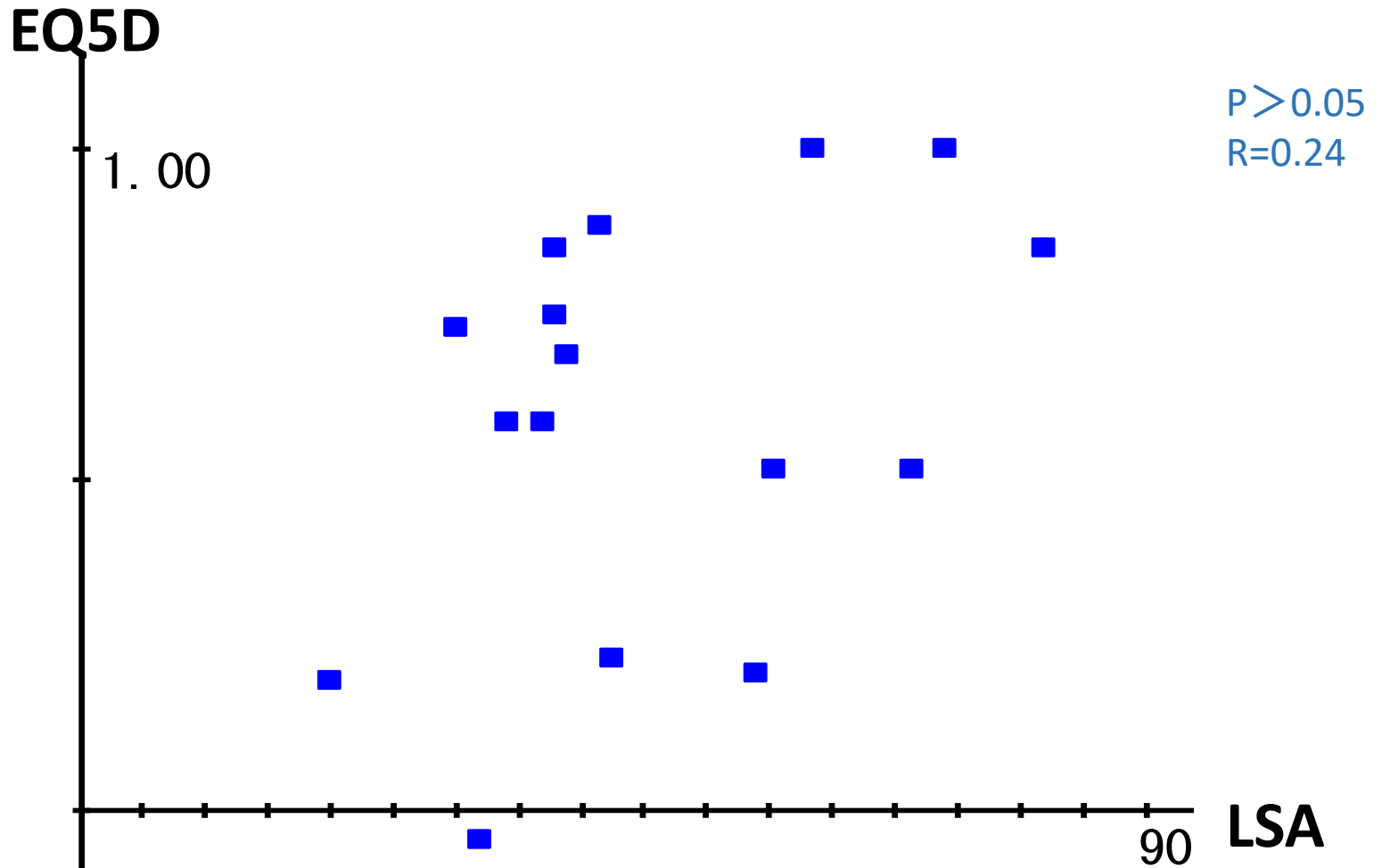
# 結果

# 集計

	LSA	EQ5D
1	38	0.85
2	58.5	1
3	55.5	0.516
4	69	1
5	66.5	0.516
6	32	-0.044
7	42.5	0.228
8	37	0.587
9	41.5	0.883
10	58	-0.181
11	54	0.205
12	39	0.689
13	34	0.585
14	20	0.195
15	38	0.746
16	30	0.727

# 結果

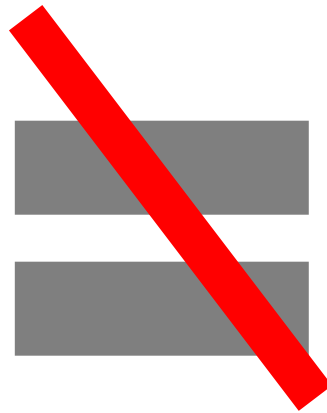
## EQ5DとLSAの関係性



LSAの得点とEQ5Dのスコアにおいて相関係数 $r=0.24$ 、危険率 $p > 0.05$ と有意な相関を認めなかった。

# 考察

生活空間の  
広がり



QOLの  
向上

生活空間の広がりにQOLは関係しない



MEDICAL  
CORPORATION  
RYOUN GROUP

# 考察

趣味

社会交流

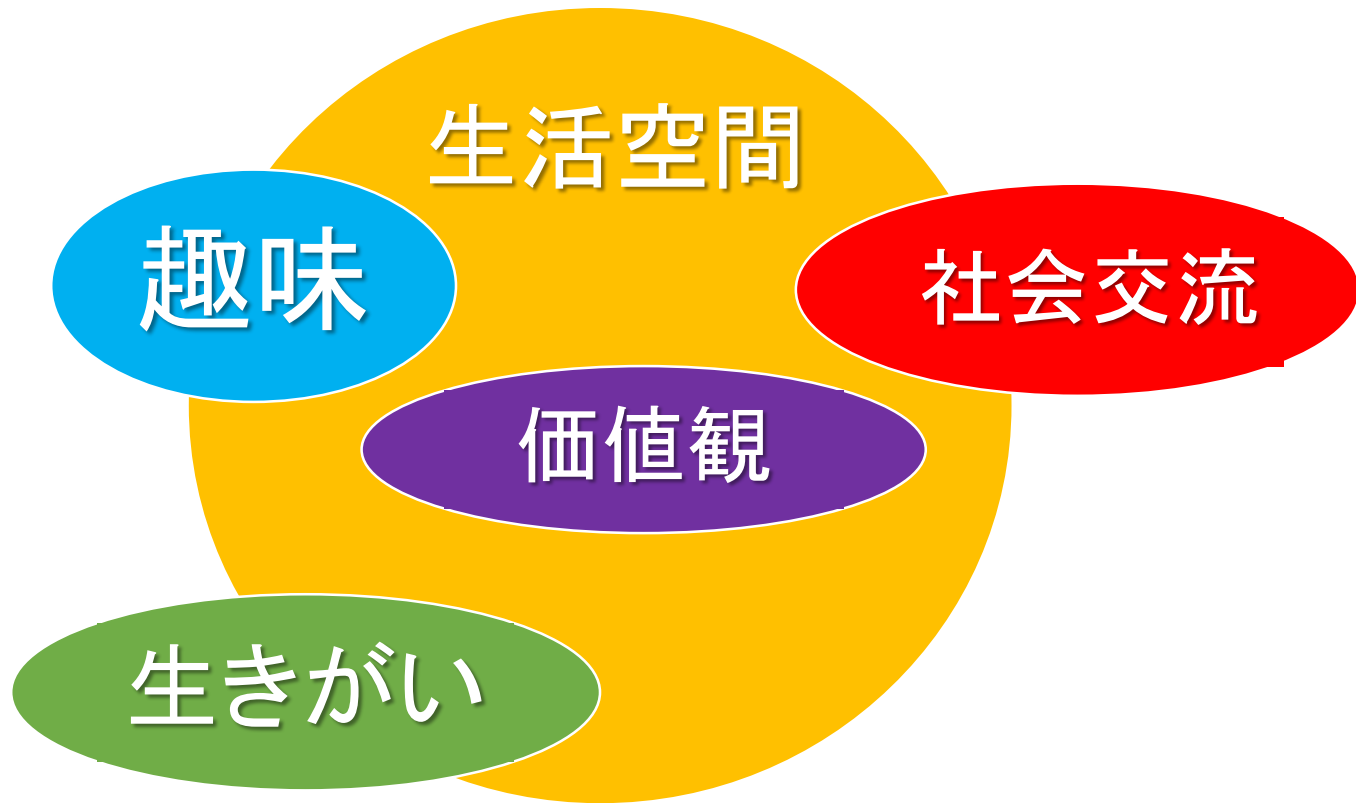
生活空間

QOLの向上は得られない

生きがい

価値観

# 考察



それぞれの生活空間に応じた目標設定、  
通所リハビリテーション計画が必要

# まとめ

実際の現場では、生活範囲を広げることが良いことであり、それがQOLの向上につながると考えているゴール設定をよく目にする。

一概にQOL＝活動範囲の拡大ではなく、その人にとっての価値、生活スタイルや習慣をもとにQOL向上に向けた目標設定と、計画立案が重要であると改めて考えさせられた。

通所リハビリテーションでは生活期でのリハビリテーションが中心となり、機能改善は困難な場面も見られる。そのような方への生活範囲の拡大、QOLの向上をどのようにしていくかが今後検討すべきと考える。



MEDICAL  
CORPORATION  
RYOUN GROUP